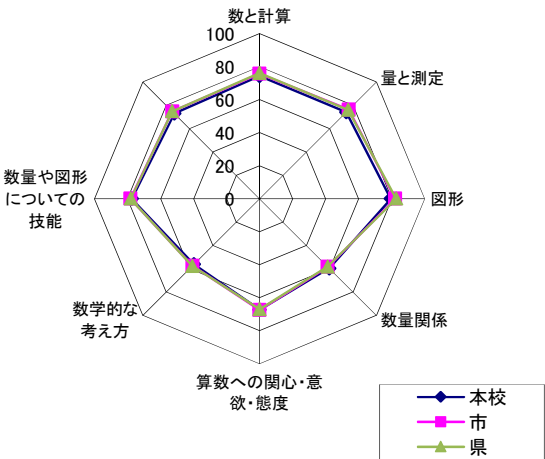


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.4	75.8	76.1
	量と測定	74.3	76.5	76.0
	図形	79.5	82.1	82.7
	数量関係	59.6	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	67.2	67.4	67.0
	数学的な考え方	56.2	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	77.4	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	73.0	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○3けた＋4けた＝4けた(繰り上がり3回)の計算をする設問に対する平均正答率は84.4%で、県の平均を5.6ポイント上回っている。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味の設問に対する平均正答率は17.4%と低く、県の平均を14.1ポイント下回っており、課題がみられる。	・かけ算の筆算に出てくる数の意味を正しく選択できないということは、筆算の計算の過程を理解しないまま筆算の作業を行っているためであると考えられる。式を立てて計算をする学習では、方法や考え方を図や式、言葉を用いて説明できるよう継続して指導していく。
量と測定	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める設問に対する平均正答率は82.6%で県の正答率とほぼ同じである。 ●はかりの目盛りの読み方を答える設問の平均正答率は72.5%で、県の平均より5.9ポイント下回っており課題がみられる。	・はかりの使い方を確認し、実際に授業で身近な物の重さを量る体験活動を繰り返し行い、目盛りの読み方などに慣れさせ、基礎・基本の定着を図る。
図形	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○円の直径を正しく選択する設問と正三角形を作図する設問の平均正答率はともに88.1%で県とほぼ同じであった。 ●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める設問に対する平均正答率は62.4%で県の正答率を6.1ポイント下回っている。	・コンパスによる作図が完全には身に付いていないので、使い方を丁寧に確認し、様々な図形の作図に取り組ませていく。 ・箱の中に球を入れて直径と箱の辺の長さとの関係を比べるなど、具体物を使って実感的な理解を伴った学習を進めていく。
数量関係	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する設問に対する平均正答率は26.6%だが、県の平均を5ポイント上回っている。しかし、無回答率が28.4%であった。 ●□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ設問の平均正答率は、県の平均とほぼ同じであったが、46.8%と正答率が低かった。	・表やグラフを正しく読み取ることに加えて、表やグラフから読み取れることをノートに書いたり、児童同士で意見交換したりするなどの言語活動を取り入れ、自らの考えを言葉や文字にして整理する力を育む。 ・文章問題については、宿題や朝の学習の時間で文章問題に取り組ませ、加減乗除のどの計算方法を使うべきなのかを判断できるようにしていく。